

市 宮 一
館 物 博
り よ だ

No.32 2003.3



旧国道木曾川橋（昭和12年完成、北方町北方）

『街でみつけた近代 ～一宮の近代化遺産～』

平成15年4月26日(土)から5月25日(日)まで 休館日:4/28(月)、4/30(水)、5/6(火)、5/12(月)、5/19(月)

明治時代より、西洋から伝えられた新技術は、一宮の人々にも驚きとともに受け入れられ、少しずつ街の表情を変えていきました。官設鉄道や道路の整備は、それまで船で渡っていた木曾川に巨大な橋を誕生させ、私設鉄道も順次、路線を延ばしていきました。紡績工場には見上げるような煙突が立ち、街には、煉瓦造の建物をはじめ洋風デザインの建物が出現します。

昭和に入ると、水道・下水道の事業が開始され、都市としての機能が充実していきます。地下に広がる埋管とともに、地上には配水塔や浄水場、抽水場などの施設が建造され、市街地では市庁舎をはじめコンクリート造の建物が増えていきました。

こうした一宮の近代化への軌跡は、わたしたちは、街で「近代化遺産」と呼ぶことができる建造物や土木構造物を見つけることで確認することができます。

今回、本展では、近代(明治・大正・昭和戦前)という時代のなか、近代的な手法を用いて造られた、駅舎や銀行、煙突、橋、水道施設などの近代化遺産を取り上げ、写真パネルを中心に、その成立や背景、現状などを紹介します。

5月3日(土)、5月17日(土)

午後2時から 展示説明会

説明: 当館学芸員



旧尾西織物同業組合事務所 (昭和8年完成、栄4丁目)



一宮市庁舎 (昭和5年完成、本町2丁目)



配水塔 (昭和12年完成、文京2丁目)



下水道抽水場 (昭和4年完成、柳戸1丁目)



鋼製耐震煙突 (明治41年完成、羽衣2丁目)

旧冷凍工場 (大正頃、栄4丁目)



写真提供: (株)豊島 (鋼製耐震煙突)

市内近代化遺産マップ



市街地の遺産

- 旧冷凍工場
- 旧名古屋銀行一宮支店
- 一宮市庁舎
- 旧国島商店一宮支店
- 旧尾西織物同業組合事務所

凡例

●は建物、■は土木構造物などです。青は現存するもの、緑は失われたものです。

企画展 「一宮の考古学のおゆみ・80年」

平成15年7月1日(火)～8月31日(日)

講演会・とき：7月27日(日)午後1時30分から

テーマ：「考古学40年—一宮市とともに—」(仮題)

講師：東海学園大学人文学部教授 岩野見司 氏

展示説明会・とき：7月5日(土)午後2時から 8月2日(土)午後2時から

説明：一宮市博物館学芸員

大正15年に郷土史家森徳一郎によって、馬見塚遺跡出土の土器棺が全国で紹介されて以来の、一宮市における考古学のおゆみを、出土遺物とともに振り返る展示です。

一宮市の考古学は、3つの画期により、4時期に区分されます。

第一の画期 森徳一郎が馬見塚遺跡の土器棺を発表(1927：昭和2年)

第二の画期 浅井古墳群の発掘を契機とした市史編さん事業の開始(1958：昭和33年)

第三の画期 博物館開館とほぼ時期を同じくする大規模発掘の開始(1988：昭和63年)

各時期の概要

0期 江戸時代の古記録類に残された遺跡や遺物が見られます。車塚古墳が壊れて鏡が出土した記録や、人麿塚古墳が発見された時の記録などが残っています。

I期 森徳一郎が、大正15年に発見された馬見塚遺跡の土器棺を『考古学研究2』に報告して以後、学会で頻繁に取り上げられました。また、市内の遺跡や遺物が「愛知県史跡名勝天然記念物調査報告」に報告されています。



写真(左上) 車塚古墳の崩壊(1789)
(右上) 馬見塚遺跡A地点の土器棺(1925)
(左下) 岩塚古墳の発掘調査(1958)
(右下) 猫島遺跡現地説明会(2000)



秋季
特別展

「MOA美術館名品展
～黄金の茶室とわび茶の世界～」

平成15年10月10日(金)～11月9日(日)

休館日：10月/14日(火)・20日(月)・27日(月)、11月4日(火)

主催：一宮市博物館・中日新聞社

後援：愛知県教育委員会

協力：MOA美術館、エム・オー・エー美術・文化財団愛知支部

禅宗と共にわが国にもたらされ、桃山から江戸時代にかけて隆盛を極めた茶道文化は、今も私たちの生活の中に根付いており、一宮市のある尾張地方は、全国で最もお茶の消費量の多い所と知られています。

この展覧会は、国宝・重要文化財などを多数所蔵し、東洋美術の宝庫と高く評価されているMOA美術館(熱海市)のご協力により、「茶道文化」に焦点を当てまして、豊臣秀吉ゆかりの「黄金の茶室」(復元)ならびに重要文化財2件、重要美術品1件を含む48件を選びすぐって展示します。わび茶の世界を支え、またお茶の世界に華やかさをもたらした名品の数々。この機会に、今日の私たちの生活と文化の原点とも言うべき、桃山・江戸時代の、日本の伝統文化の粋を集めた作品群をご鑑賞いただきたいと思えます。

なお、会期中の毎日曜日には茶会を予定しています。



黄金の茶室(復元)



野々村仁清「色絵金銀菱重茶碗」(重文)

博物館ニュース

文化財解説 ボランティア養成講座

市内に所在する文化財全般についての知識・理解を深めながら、より高度な解説能力を醸成し、個々の文化財に関する解説ができるような人材育成をめざして、文化財解説ボランティア養成講座を開催しました。募集定員二〇名に対して、五四名の方の応募があり、抽選で受講者を決定させていただきましたが、みなさんの関心の高さが伺われます。

平成十四年度は、文化財に関する入門編として、博物館の学芸員の話を中心に、文化財についての学習を行いました。継続して平成十五年度は、より専門的な立場から一宮市文化財保護審議会委員の先生方のお話を伺う予定です。

この講座の平成十二・十三年度修了生については、六月十九日浅井町の運善寺で浅井南小学校の六年生を対象に解説を行ってもらいました。今後も、要望があれば、現地で文化財について解説をしていただくなど活用を図っていききたいと思います。



平成14年
6月7日

愛知県史 編さん委員会文化 財部会の資料調査

南北朝時代創建の妙興報恩禅寺（妙興寺）は、足利・豊臣・徳川家などの庇護を受けて隆盛し、今も臨濟宗妙心寺派禅の専門道場として活動していますが、東洋美術を中心とする文化財の宝庫としても知られています。今回の調査対象は、絹本着色十六羅漢像（国指定）、彫根来大香合・梵鐘（以上県指定）、喚鐘・湖州鏡・付朱漆塗鏡筒・朱漆楼閣人物葡萄栗鼠牡丹沈金膳（以上市指定）で、梵鐘を除く各資料の調査が当館を会場に行われました。



愛知県史の資料調査



平成14年
9月13日
9月27日

ギャラリー展 二〇〇二 一宮美術作家協会 新展

平成14年
10月2日
10月14日

一宮写真協会 七人展

一宮書道協会 一宮市美術展

平成の市長賞受賞作家展

初めての試みとして、一宮美術作家協会、一宮写真協会、一宮書道協会の協力のもとで、ギャラリー展を開催しました。各協会の趣向を凝らした展覧会が、博物館の秋景に、芸術の香りを一層深く漂わせてくれました。



写真(右) 一宮書道協会 一宮市美術展
平成の市長賞受賞作家展
(中・上) 一宮写真協会 7人展
(中・下) 2002一宮美術作家協会
新展
(左) 2002一宮美術作家協会
新展

平成14年
10月26日
11月24日

秋季特別展 川から海へ 〜人が動く・モノが運ばれる〜

濃尾平野東北に位置する当地域を流れる幾筋もの流路は、従来より物流における道路の役割を果たしてきました。本展では当地に人が多く暮らし始めた弥生時代に焦点をあて、土器をはじめとして石器や金属器、木製品、骨角器などから当時の人・物・情報の動きを考えました。



平成14年
11月1日

市民文化財めぐり

市民の方に私たちの貴重な先祖の遺産である文化財を紹介することに、より、文化財愛護の精神を高めていただくため、昭和四十二年以来毎年「市民文化財めぐり」を開催しており、今回が三十八回目です。コースは、真清田神社、長隆寺・中島宮、檜の木文化資料館、萬葉公園、正福寺、菊安賀の町並み、戸塚七ツ石、妙興寺、博物館。例年ほぼ天候には恵まれていましたが、この日はあいにく本降りの雨模様。それにもかかわらず、三十三名の参加者の方々は熱心に講師の解説に聞き入っていました。



平成14年

11月15日

**東海北陸地区
公文書等保存利用
事務協議会**

歴史的に価値のある公文書等の保存や活用についての問題点などを話し合う、東海北陸地区公文書等保存利用事務協議会の通常総会および研究会が、当館和室にて開催されました。出席したのは文書館の職員など、日頃から公文書に携わる近隣各市の担当者です。

研究会では、各施設におけるデジタルアーカイブ化の取り組みや、市町村合併にともなう公文書散逸の問題などについて意見交換を行いました。



総会の様子

平成15年

1月11日
2月23日

**企画展 「伝えるということ」は
子どもたちが贈る
学芸員が贈る**

愛知県博物館協会子どもと博物館研究会との共同企画として実施した子どものための展覧会。博物館の調査・研究・普及活動をはじめ、美

術・歴史・考古・民俗・自然などの分野において、作者が何を思い伝えようとして作品を制作したか、あるいはできあがった作品や歴史的資料から学芸員が何を読み取り子どもたちに伝えようとしているのかを展示期間中毎週日曜日に行いました。



平成15年

1月22日

文化財防火訓練

昭和二十四年一月二十六日に法隆寺金堂壁画が焼失し、以来、文化財を火災・震災から守るため毎年この日が「文化財防火デー」と定められました。今年も四十九回目に当たり



を火災・震災から守るため毎年この日が「文化財防火デー」と定められました。今年も四十九回目に当たり

平成14年

12月7日
12月23日

**冬季企画展
二〇〇二―一宮市現代
作家美術秀選展**

一宮市博物館では、昨年に引き続いて、「二宮市現代作家美術秀選展」を去る十二月七日から二十三日にかけて開催いたしました。第六十回一宮市美術展での依頼出品者の選りすぐり作品や市長賞受賞者の作品、及び各協会推薦者の作品六十五点を展示したものです。会場は、昨年同様、特別展示室・ラウンジ・講座室・展示室四・ギャラリを当て、落ち着いた雰囲気の中で来館者の方々に鑑賞していただきました。



ますが、市教育委員会は消防本部とともに防火訓練・文化財管理者研修会・文化財防火パトロールを実施しました。防火訓練は千秋町佐野の龍光寺境内において市消防署員・龍光寺檀家・地元消防団員の皆さんらを中心となつて緊急時を想定して行われ、地元町内会・保育園など多くの参加がありました。

平成15年

3月1日
ほか

**博物館講座
「はにわをつくる」**

三月一日、二日、十六日に、小学校高学年児童とその親を対象にして実施しました。



はにわの製作



野焼き

今回の参加者は親子七組十六名のみなさんで、それぞれ親子で相談しながら、野焼き用の粘土を使って、様々な形のはにわを製作しました。その後、博物館で約二週間乾燥させたあと、隣接する妙興寺の境内で野焼き作業を実施しました。野焼きの日は、午前中は晴れていましたが、午後から雨が降り出してしまいい、じっくり焼き上げることができませんでした。そして、一部のはにわは割れたり、剥離したりしましたが、みなさんの満足気な表情が印象的でした。また、野焼きの合間に、磨製石器の製作や、台付甕による赤米などの炊飯を行い試食しましたが、昔の人の生活を体験できたと喜びの感想が聞かれました。

平成15年

3月2日
3月16日

**作品展 手つむぎ・
染め・織り展**

繊維講座生と伝承会員による、第十四回作品展発表会。平成十四年度に製作した、反物・着物・テーブルセンターなど約五十点の作品を展示しました。恒例の「糸づくり大会」では、子どもたちをはじめ、大勢の方に参加いただきました。



糸づくり大会

考古学レポート

千部塚古墳の測量調査

平成14年度博物館実習のカリキュラムの一つとして、千部塚古墳の測量調査を実施したので、以下その成果を報告する。

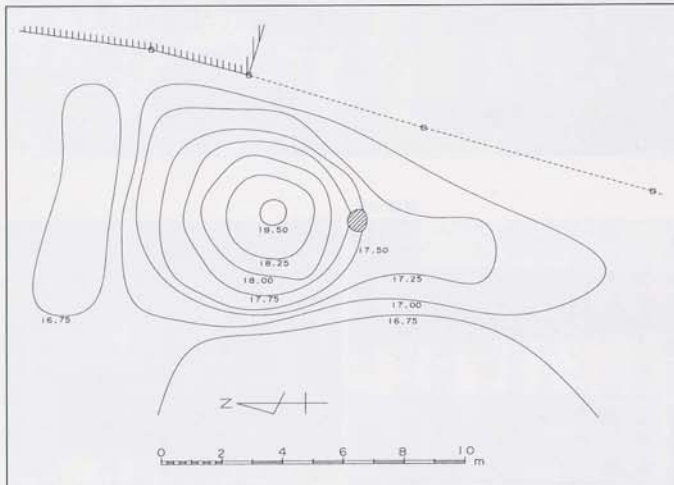
千部塚古墳は、市内浅井町黒岩字千部塚216番地に所在し、かつては50基以上の造営が確認されている浅井古墳群のほぼ北端に位置する。千部塚の名称は、関ヶ原の戦いに先立つ岐阜城攻めにあたり河田河原で合戦した多数の戦死者を葬り、千部経を誦読してその冥福を祈ったと伝えられることに由来し、墳丘上には硬質砂岩製の石碑が建立されており、下記の銘文が彫られている。

表面「給田常岩 法華経千部供養 施主 仁嶽宗心居士
同次衛門 同新左衛門 協田市衛門
同五兵衛 同與次衛門 同市兵衛」

(1752)

裏面「宝暦二壬申八月建之」

測量調査の結果では、現況で直径10m、高さ1.5mの円墳と



千部塚古墳測量図 (1:200)

考えられるが、従前はもう少し大きな規模を有していたものであろう。北部の窪みは、最近の水路掘削の痕跡とも言われる。

また、墳丘上の石碑は、浅井古墳群の石室天井石を転用したものである可能性がある。高さ141cm以上、直径62cmを測り、緑灰色の硬質砂岩製の石である。こうした硬質砂岩は、岩塚古墳や、人麿塚古墳の石棺としても使用されている石材であり、黒岩の墓地にはこうした天井石を転用した石塔も見られる。

測量調査は平成14年8月28日に、博物館実習生の小塩淳仁、小森美草の両君とともに実施したものです。炎天下の測量調査ご苦労様でした。記して感謝の意を表します。(土本典生)



千部塚古墳近景



測量作業風景

石碑

資料紹介 「額田部寺」銘平瓦

今般津島市在住の服部元之氏より、氏が長年にわたり塊集された遺物の寄贈があった。氏は中島郡の南部地域、海部郡域で精力的に遺物の採集に努められた方である。

今回紹介する資料は、中島郡平和町下三宅に所在する三宅庵寺で採集された平瓦で、岩野見司氏が『日本の古代遺跡48—愛知県—』(1994、保育社刊)で紹介されたものである。

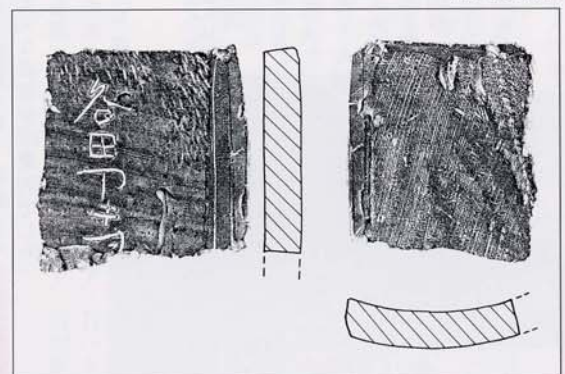
器面調整は、凹面が布目の上にハケメ、凸面が縄タキ後板ナデであり、凸面に「各田マ寺」とヘラ描きされる。側縁は、凸面側が1cm~1.5cmの幅で面取りされ、ヘラによる刻線があり、凹面側は幅2mm程の面取りが施される。胎土は緻密で灰色を呈し、表面は須恵質で暗灰色に焼



成される。厚さ2.4cm。

「各田マ寺」は各は額の一部分、マは部の省略と考えられ、額田部寺と判読可能である。三宅庵寺造立に額田部が何らかの形でかかわっていたことを推測させる資料である。

(土本典生)



実測図・拓本 (1:4)

新収蔵資料紹介

山喜多二郎太 (一八九七〜一九六五)

① 伊勢の漁港

制作年 一九六三年 (昭和三十八年)
技法・材質 油彩・画布
量 縦一三〇・〇×横九七・三cm
署名 画面左上に「伊勢にて二郎太(印)」
平成十四年度購入

② 収穫

制作年 一九六〇年 (昭和三十五年) 頃
技法・材質 水墨彩色・ケント紙
量 縦七六・五×九八・〇cm
署名 画面左下に「二郎太(印)」
平成十四年度 山喜多時世志・次世志氏寄贈

山喜多二郎太は現在の福岡県直方市の生まれ。一九一五年(大正四)東京美術学校西洋画科に入学し、一八年に寺崎広業に師事して日本画を学ぶ。二〇年第二回帝展で「子供」が初入選。二七年、友人たちが皆パリへと向かう中で独り中国に遊学し水墨画を研究した。三四年第十五回帝展で「二人の女」が特選を受賞。翌年第一回二部会展で「写生」が文化賞特選を受賞した。その後、三七年文展無鑑査、五四年光風会展審査員、五八年日展評議員を歴任。その間、五六年には妙興報恩禅寺仏殿の天井画「蟠龍図」を油彩で制作。晩年は、六二年に米国巡回日本水墨画展、六四年小森松庵・田山方南と和朗会茶道作品展、六五年に第七回アジア墨芸会展に出品するなど、東洋画に大きく傾倒した作画活動を行った。

妙興寺仏殿は、さかのぼる二五年(大正十四)画家佐分真の実母田中たま等の寄付によって再建され、佐分家とは深いゆかりがある。山喜多は東京美術学校で一年後輩の佐分と卒業後に親交が生じ、その没後、三七年から七年間続いた佐分賞委員会の委員を務めている。その関係もあって天井画制作を依頼されたものであろう。また、山喜多は一宮市の山下病院々長であった服部敏良氏と親交があり、天

井画制作の際にも同氏宅に永く逗留して多くの作品を残している。それらは現在も病院のギャラリーに展示されているのを観ることが出来る。東洋の心を西洋の技法で描くという試みは、今もなおその輝きを失っていない。
なお、①「伊勢の漁港」は第六回新日展に出品された。(毛受英彦)



① 山喜多二郎太「伊勢の漁港」



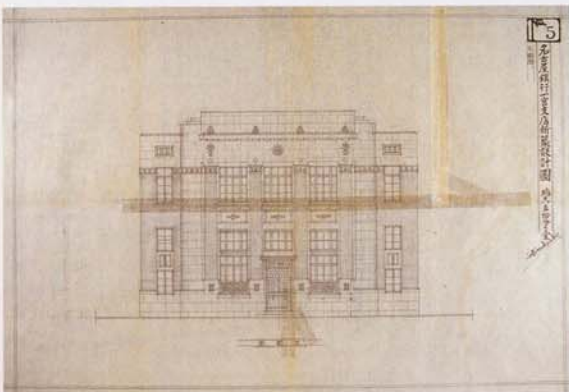
② 山喜多二郎太「収穫」

旧名古屋銀行一宮支店設計図

制作年 一九二四年(大正十三) 頃
平成十四年度市役所より保管転換

現在の市役所西分庁舎は、名古屋を中心に活躍した建築家、鈴木禎次により旧名古屋銀行一宮支店として設計された。鈴木は明治三年(一八七〇)静岡に生まれ、帝国大学工科大学を卒業後、英仏留学を経、同三十九年には前年開校したばかりの名古屋高等工業学校へ着任、名古屋に居を構えた。彼は在任中または同校退官後、松坂屋という呉服店(名古屋初の百貨店建築)など多くの建築を手がけている。旧名古屋銀行一宮支店は、その頃の地方都市ではまだ珍しい鉄筋コンクリート造で、外観は多くの銀行建築と同様正面を列柱で飾っている。現在は旧態を失っているが、以前は玄関から中へ入ると吹き抜けの客溜と営業室(行員の業務室)になっていた。

旧名古屋銀行は昭和十六年に合併により東海銀行となり建物は同一宮支店として引き継がれるが、同五十五年には東海銀行も移転し、現在に至るまで市役所の施設として一宮市の所有となっている。今回市役所建設部より移管を受けた設計図には、鈴木のサインを見ることで、改造を行う前の建物の状況を知ることが出来る貴重な資料といえよう。(岩井章真)



正面図

平成15年度催し物のご案内

- 4月26日(土)から5月25日(日)
春季企画展 **街でみつけた近代**
- 7月1日(火)から8月31日(日)
企画展 **一宮の考古学のおゆみ・80年**
- 10月10日(金)から11月9日(日)
秋季特別展 **MOA美術館名品展**

一宮美術作家協会、一宮写真協会、一宮書道協会の協力のもとで、新しい展覧会を企画中です。詳細は、後日、広報等でお知らせいたします。

1月10日(土)から2月22日(日)

企画展 **くらしの道具～今と昔～**

平成3年度より毎年歴史を学び始める小学校3年生を対象に企画し、今回で13回目となる展覧会。本年度からはカリキュラムの変更により、小学校4年生のための展示となります。今回はこれまでの暮らしに必要とする衣食住の歴史を考える展示のほか、海、山、平野など生活環境による道具や暮らしの違いにも触れながら展示します。



12月6日(土)から12月21日(日)

2003一宮市現代作家美術秀選展

この「一宮市現代作家美術秀選展」も今年度で3回目となります。一宮市美術作家協会の日本画・洋画・彫塑・工芸・デザインの5部門と、一宮書道協会、一宮写真協会それぞれの推薦による選りすぐり作品を展示するものです。回を重ねる毎に、益々充実していくことにより、一宮市の美術振興に一層貢献したいと思います。



2月29日(日)から3月14日(日)

作品展 **手つむぎ・染め・織り展**

繊維講座(下記参照)の生徒と卒業生(伝承会員)による、15回目の作品発表会。手つむぎ・染色・機織りなど多くの工程を経て製作された木綿の作品を展示します。



手つむぎ・染め・織り展
(14年度)

講座のご案内

博物館講座

子どものための尾張歴史講座～体験!考古学～ 平成15年8月中の日曜日5回

小学校高学年から中学生を対象に、尾張地方の文化的特徴を紹介する講座の第4回。今回は、考古学を1学期に学ぶ小学校6年生を主な対象とし、石器や骨角器、織物などについて学ぶ考古学の体験講座。

繊維講座 4月～2月 3月に作品展

一宮地方は、江戸後期から明治前期にかけて、結城縞や棧留縞など縞木綿の生産で有名でした。本講座は、この縞木綿の歴史をたどるとともに、その当時の技術の保存及び伝承を目的としています。通年計20回の講座。年度末の「手つむぎ・染め・織り展」では、1年の成果を作品として発表します。



博物館講座

尾張平野を語る8-環境と人と生き物～山・平野・川・海をつなぐ～ 平成16年1月25日(日)、2月1日(日)、2月8日(日)の3回開催予定

伊勢湾・濃尾平野に暮らす人や生物をテーマに、自然環境と人、歴史のかかわりを考える講座。

古文書講座 5月～2月

本講座は、当館で保管している主に市内の近世文書をテキストとして使用し、古文書の読解力を養うと共に、江戸時代の民衆の生活の様子を探り、地域社会のあり方を明らかにする目的で開催しています。平成4年度からはじまり、今年度は12回目です。5月から2月までほぼ毎月1回、合計10回の講座を開き、受講は3年で修了としています。4月15日の市広報紙上で新受講生を募集します。

一宮市
博物館
だより

第32号

発行日 ……平成15年3月31日
編集・発行 ……一宮市博物館
制作 ……ヨツハシ株式会社

利用案内

名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車徒歩7分
〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216
【観覧料】(常設展・聴講料含む・特別展の場合は別途定める。)
一般=200円(160円) 高・大生=100円(80円)
小中生=50円(40円) *()は20人以上の団体料金
【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)
【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
※土曜日は小・中学生無料。(長期学校休業日および休日はのぞく)
※一宮市発行の「シルバー優待証明書」あるいは「老人医療受給者証」持参の方は無料。
【HP】<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/museum/index.html>

